

南陽中学校のESD活動

<活動の概要>

・本校はESDを「未来へつなぐ学びの実現」と捉え、ESDの実践を通して「未来に向かってたくましく生き抜く力の育成」を目標とした。具体的には、防災、人権、地域連携を柱に、①「いのちの月間」を中心とした「いのちの学習」、②地域とのつながりを深める学校行事・生徒会活動、③安全・安心な町づくり、学校づくりを旨とした防災学習について実践した。

・活動の実際

① 「いのちの月間」を中心とした「いのちの学習」(全校生徒)

6月を「いのちの月間」とし、学級活動、道徳などを柱にして、「いのち」をテーマとした学習を実施している。本年度は、永山友美子先生を講師にお招きし、アイリッシュハーブの演奏や「いのち」そして「人生を豊かにする大切なこと」についてお話しいただいた。「笑い」と「感動」が交互に押し寄せてくる講演会で、生徒たちの聴き入る姿が印象的であった。



【講演会の様子】

② 地域とのつながりを深める学校行事・生徒会活動(全校生徒・地域・保護者)

本年度の9月に南陽祭を実施した。全校生徒が体育館に一堂に会し、太鼓部や吹奏楽部などの文化部の発表や、有志グループによるパフォーマンスなどを行った。保護者にも来校していただき、多くの保護者が生徒のがんばっている姿を参観していただいた。

「地域と連携して、地域に貢献できることはないか」という生徒の意見から始まった「さ〜くりん(地域清掃活動)」は、年間に2回計画している。2回目は中止となってしまったが、1回目を6月に行い、生徒・職員・保護者・地域の方、総勢約130名で高師緑地公園の清掃活動を行った。活動を通して生徒、職員、地域の方が一緒にボランティア活動をし、中学生が地域の一員として自覚を高め、地域の方とつながりを築くよい機会となっている。



【さ〜くりんの様子】

③ 安全・安心な町づくり、学校づくりを旨とした防災学習(全校生徒・3年生)

第1回避難訓練は、地震による火災の発生を想定し、グラウンドへの避難訓練を実施した。第2回は、地震後の津波発生を想定し、校舎の3・4階の避難教室に垂直避難する訓練に加え、校区内の高台に避難する水平避難訓練も行った。これらの訓練により、災害時にどのような行動をとるべきかを主体的に考え、自ら命を守る行動をとれる生徒の育成を旨としている。

3年の総合学習では、防災に関する探究学習を行っている。市の防災危機管理課と連絡を取りながら、防災に関するさまざまなテーマを設定し、グループにわかれて体験活動を行った。生徒は、「もし、自分たちが同じ被害にあったら、何ができるのか」「各家庭で事前に備えておくべきことは何か」などについて学習を深めた。



【グループ学習の様子】